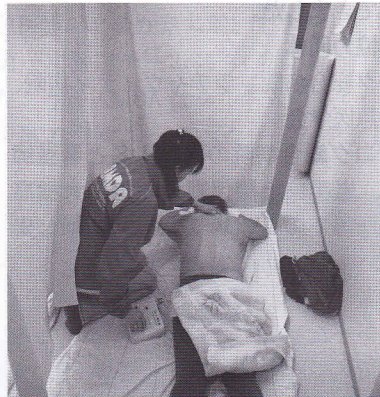


AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2011 年 12 月 No.37 定価 150 円
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-3
 特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 編集：AMDA ボランティアセンター
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

AMDA 東日本大震災復興支援事業活動

岩手県上閉伊郡大槌町で、建築準備を進めていた「AMDA 大槌・健康サポートセンター」が 11 月 2 日に着工を迎えました。13 日には上棟式で、昔ながらの餅投げなどを行い、地域住民の方など約 70 名が参加してくださいました。AMDA 健康サポートセンターとは、「AMDA 鍼灸師による鍼灸室」と「フリースペース」を併設した複合施設です。フリースペースは、地域のコミュニティスペースとして、「集いの場」「チャレン



佐々木鍼灸師巡回治療の様子



大勢来てくださった上棟式

ジショップ」「サークル活動」「カルチャー教室」「放課後の学生の自習スペース」「宗派を超えた宗教卓話の時間」など住民が気軽に活用でき、「大槌町民の健康を支援する、笑顔が集う場所」をコンセプトに計画を進めています。また「鍼灸室」では、震災後から AMDA の医療チームに加わり、現在も巡回鍼灸治療を行っている大槌町在住の佐々木鍼灸師が施術を行います。毎月のべ 100 人程度の治療活動を行っています。仮設住宅に入居後、孤立しがちな高齢者も多く、巡

回鍼灸治療で鍼灸師が訪れることは、鍼灸効果だけでなく、安心を届けるという意味でも大変評価されています。同センターは 12 月中旬の開所を目指して建築を進めています。

また、7 月から看護師派遣の支援を実施していた宮城県本吉郡南三町志津川病院に対して、10 月からは、地元の看護師の継続雇用支援を行うことを決め、同病院に対してその支援金を、看護師の雇用に合わせて毎月贈呈しています。そして、12 月と 1 月には、地元の方が休めるよう再び短期の看護師等の派遣を行います。

中国四川省政府から感謝状

訪日中の四川省代表団が、11 月 15 日岡山の AMDA 本部にお越しになり、2008 年の四川省大地震はじめ数々の四川省での緊急医療支援活動に対して感謝状と記念品を贈呈くださいました。また、当時 AMDA が活動した被災地都江堰（とこうえん）の小学生らから日本の東北被災地の子どもたちにと折鶴の束を託されました。



贈呈式の様子

<感謝状 翻訳文抜粋>

多年来、貴会は四川チベット区が大雪山災害にあった際など被災地にて積極的に救援活動を展開されました。特に 2008 年 5 月 12 日汶川大地震発生後に貴会はいち早く台湾と連携して緊急医療救援チームを北川に派遣し医療活動を展開する一方で華西中医院と共同して被災地で巡回診療を行い、その上医薬用品と医療器械や検査備品などを贈呈され、我が省の応急救災に対する支援と復旧再建に突出した貢献をされました。AMDA は、我々が甚大な自然災害に遭遇した際に苦難を共にし、友愛互助と人道主義精神によって行動されることを四川人民は心に銘記しています。同時に、今年 3 月の東日本大地震後被災地医療救援に即時挺身された菅波茂先生を代表とする AMDA の皆々様

四川省人民政府外事办公室

感謝状

亚洲医师联络会代表
医学博士 菅波茂先生

多年来、貴会通过长期从事国际友好交流事业的登山德治先生牵线搭桥，为四川藏区遭受大雪灾等灾民开展积极的救援活动。特别是 2008 年 5.12 汶川特大地震后，迅即与台湾合作派出紧急救援医疗队赴北川展开医疗救治，并与华西中医病合作进行巡回医疗救助，同时捐赠医药用品、医疗器械和检测设备，对支援我省抢险救灾和恢复重建作出了突出的贡献。

对于亚洲医师联络会在四川省遭遇特大自然灾害时所表现出的患难与共、友爱互助和入道主义精神与行为，四川人民将铭记在心。

值此四川地震灾区恢复重建工程即将全面完成之际，作为四川省人民政府的职能部门，我们谨代表省政府和全省人民，再次向亚洲医师联络会表示衷心的感谢！并向四川人民的老朋友登山德治先生深表谢意！同时，对今年 3 月日本东北大地震后投身于灾区医疗救助的以管波茂先生为代表的亚洲医师联络会的诸位深表敬意，并衷心祝愿灾区人民重建美好家园！

四川省人民政府外事办公室
二〇一一年十一月一日

に深く敬意を表し、被災地区の家々の早期再建を衷心より祈念申し上げます。

国境を越える「相互扶助」

タイからは医師と看護師が東日本大震災被災地岩手県大槌町で AMDA チームに加わり活動していました。そして日本トルコ文化交流会からはトルコのミネラルウォーターペットボトルで 2.5 トンが宮城県南三陸町志津川の AMDA 活動地に届けられていました。今度は私たちが出向く番です。「相互扶助」の精神で活動しています。

タイ洪水被災者に対する緊急支援活動



洪水で孤立した村に救援物資を届ける AMDA チームのタイ救援医学会サン会長（右）

タイでは 7 月末からのモンスーンと相次いで通過した台風による豪雨に見舞われ、北部から始まった洪水が中部を経て、10 月半ばには周辺のパトゥムターニー県とノンタブリー県に達し、アユタヤ県のロジャナ工業団地では日本企業の自動車工場も操業停止に追い込まれました。また、世界遺産に登録されている古都アユタヤの遺跡も 3 m 程の水位で水没、首都バンコクに大災害が迫る事態になりました。11 月 15 日時点で 560 人以上の死者・行方不明者が出ています。AMDA では 10 月 14 日に第一次チーム（医師 1、保健師 1、調整員 1）、31 日に第二次チーム（医師 1、看護師 2）、11 月 20 日に第三次チーム（看護師 1、助産師 1、調整員 2）計 10 人を緊急派遣し、巡回診療や衛生教育の実施、生活物資支援やライフジャケット 250 着・ロープなど救命用具の提供など、被災地域のニーズに合わせた様々な活動を行っています。

11 月 18 日時点で、バンコク市内は洪水被害のピークを越えたものの、バンコク北部や西部、周辺県では未だ 1 メートル以上浸水している地域もあり、排水の問題などから、タイ政府は、被害が長期化するとの見通しを示しました。また洪水による感染症の発生や長期に渡る避難生活による体調不良などが懸念されています。11 月 20 日に発つ第 3 次医療チームはタイの医師と日本からの看護師、調整員で AMDA 多国籍医師団を編成してボートを使って巡回診療する予定です。

第一次チームが実施したナコンサワン県の孤立した地域への AMDA の支援活動に対して、同県チュムセン郡クーイチャイの行政組織から礼状をいただきました。また第 2 次チームの活動時には学生の安否確認で現地入りしていた岡山大学・国

際センターの小川秀樹教授とタイに留学中であった岡山大学法学部法学科 4 年・一政あかりさんの協力を得て、岡山大学との連携協定に基づき活動を充実させることができました。

■実施協力団体

バンコク総合病院、ラチャヴィティ病院、タイ救急医学会

◆バンコク総合病院の医師 1 名と看護師 2 名が、岩手県上閉伊郡大槌町の大槌高校避難所等での AMDA の活動に参加しました。

■派遣者

第一次チーム

古谷 清久：皮膚科医師／千葉県在住

武田 未央：保健師／岡山県在住

大政 朋子：調整員／AMDA 本部プロ

ジェクトオフィサー／岡山県在住

第二次チーム

日下 琢雅：医師／愛知県在住

東日本緊急医療支援（岩手県大槌町）に参加



水につかりながら車から救援物資を運び出す AMDA チームメンバーら

山路 未来：看護師／兵庫県在住

東日本大緊急医療支援（宮城県南三陸町）に参加

中井 隆陽：看護師／大阪府在住

第三次チーム

米田 恭子：助産師、看護師／東京都在住

東日本緊急医療支援（岩手県大槌町）に参加

柴田 幸江：看護師／兵庫県在住

山川 路代：調整員／理学療法士／岡山大学大学院医歯薬総合研究科（博士課程在籍）／岡山県在住

大政 朋子：調整員／AMDA 本部プロ

ジェクトオフィサー／岡山県在住

フィリピン洪水緊急医療支援活動

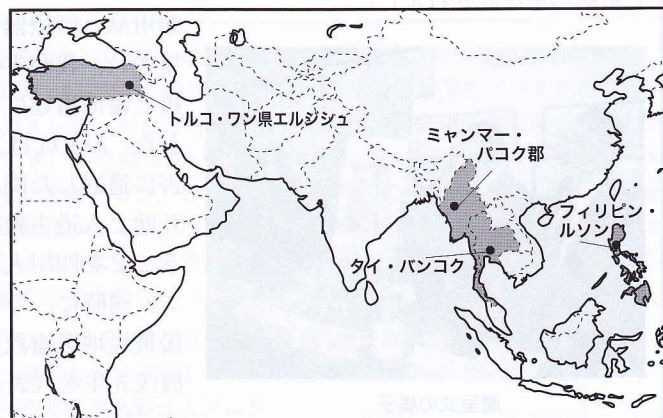


リザール州での医療活動

9 月下旬に 17 号、19 号と一週間のうちに立て続けに 2 つの台風に見舞われたフィリピンではルソン地方中部のブラカン州、パンパンガ州を中心に 31 の州に被害が発生する深刻な事態となりました。AMDA は 10 月 3 日に第一次派遣として

本部から調整員 1 名を派遣、6 日にはフィリピン軍医療班とフィリピン沿岸警備隊と合同で、外科・内科・眼科各医師、セラピスト、薬剤師ら 60 名の医療チーム編成による、リザール州キサオ町での診療活動を実施し 908 人の患者診察及び投薬を行いました。4 日と

9 日には、ブラカン州内で沿岸警備隊と合同で食糧の配給も行いました。これに続き、10 月 22 日には再び本部から調整員 1 名をマニラに派遣し、AMDA フィリピン支部、イースト大学、パンパンガ農業大学と合同で、医師・看護師・歯科医やイースト大学の学生ボランティアら 50 人から成るチームを編成し、マニラ首都圏から車で 2 時間北上した同州マガラン町サント・ニンニョ村で医療・歯科ミッションを行い、410 人の診療を行いました。被災地の中でも厳しい状況にあるこの地域では、呼吸器感染症、皮膚疾患、ぜんそくや呼吸困難などの症状が多くみられました。



国境を越える「相互扶助」

トルコ東部地震被災者に対する緊急医療支援活動



活動中の瀧崎医師（右）と大類医師（左端）

10月23日、マグニチュード7.2の地震がトルコ東部で発生し死者約600人を超える災害となりました。AMDAでは医師2名調整員1名のチームの派遣を同日決定。チームは24日に関西空港を発ち25日には地震被災地ワン県エルジシュに入り、臨時医療施設となった体育館での医療活動に従事しました。外科医である大類隼人医師と、内科医の瀧崎祐一医師のコンビネーションでそれぞれの専門性を遺憾無く発揮し救急医療活動を29

日まで行いました。調整員には、日本トルコ文化交流会から日本在住のクルド系トルコ人アフメット氏の参加により現地NGOとの連携もスムーズに進み、被災地に到着してすぐに活動を開始することができました。トルコの緊急援助隊は優秀で、東日本大震災でも活躍しました。救急医療の必要が落ちてきたところで、第一次派遣チームは31日に帰国しました。今後AMDAはクルド人の多く住む被災地の復興ニーズ調査チームを派遣し、



幼児の救急処置を終えた大類医師（右）と瀧崎医師（左）

復興プログラムを策定し、支援活動を実施していく予定です。引き続きご支援をよろしくお願いします。

■実施協力団体

日本トルコ文化交流会、キムセヨクム（トルコのNGO/そこに誰かいますかの意味）

◆日本トルコ文化交流会は、震災後インフラの復興が遅れ深刻な水不足にあったAMDAの活動する宮城県南三陸町に水をペットボトルで2.5トン運んで来てくれました。その時、受け取りを行ったのが大類医師でした。

■派遣者（10月24日～31日）

大類 隼人 医師／神戸市在住 兵庫医科大学病院 呼吸器外科 東日本大震災緊急医療支援（宮城県南三陸町）に参加
瀧崎 祐一 医師／福岡市在住 松尾内科病院 内科 東日本大震災緊急医療支援（宮城県仙台市）に参加
イェルディス アフメット 調整員／大阪府在住 日本トルコ 文化交流会

ミャンマー中部洪水被災者に対する緊急支援活動



ロープにつかまり避難する村人

ミャンマー中部では、10月17日から降り続く雨に加えて19日夜から急激な豪雨に見舞われたことにより、エーヤワディ川の支流が増水し周辺地域に深刻な洪水被害が発生する事態に至りました。パコク郡においては121名の死者（パコク郡行政発表）と、収穫前の農作物、播種前の種子や家畜など、人々の生計に直接的かつ広範囲にわたる被害をもたらし、またパコク郡中心部と地方とを結ぶ幹線道路の路肩、枯川に架かる橋、また水路の斜面が崩れるなど、社会インフラへの被害も深刻です。被災地域が、AMDA社会開発機構が従来活動しているパコク郡地域であることから、AMDAグループ

では災害発生直後から現地スタッフによる被害状況調査を行ったうえ、パコク郡行政官や保健局等関係諸機関と連携し、第一次配布として10月30日より従来のプロジェクト対象地とその周囲7村、286世帯、7,345人の被災者に対して、浄水フィルター、毛布、懐中電灯、衛生セット（タオル、石鹸、コップ、歯磨き等）などの支援物資の配布や、パコク郡保健局からの要請に基づき仮設診療所で用いる医療機材等の供与も行いました。

第二次物資配布として、再度9日に物資の調達を行い、第一次配布が十分行き届かなかった9村の合計1,669世帯の内、家屋が流されたなどの特に大きな被害を被った90世帯に対して衛生キットを配布しました。

心配された呼吸器感染症の蔓延は、今のところ発生していないものの、今後寒さが増すにつれ、深刻な事態にならないよう細心の注意を要します。

11月1日及び2日にAMDA社会開発機構の鈴木俊介理事長と同機構現地事務所の鈴木梓調整員が、ミャンマー保健省公衆衛生局職員、パコク郡保健局次長、マグウェ地域（旧称マグウェ管区）次官、パコク郡長官、同郡保健局長らと面会し、



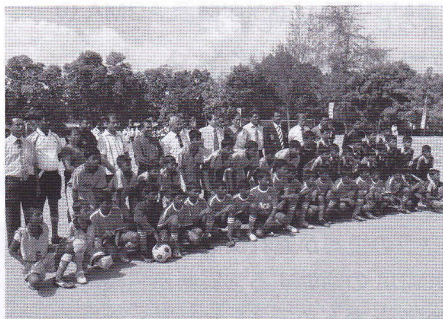
配布した支援物資についてパコク郡保健局長に説明するAMDA-MINDS 鈴木理事長

被災情報共有を行うとともに、今後の支援予定と相互の役割などについて協議した際、同国政府は簡易仮設家屋の建設や食料支援などの用意があることを表明し、AMDAは以下の支援活動を実施することを表明し、協力体制の維持と強化に努めることを改めて確認しました。

1. ニーズを確認しながら、引き続き毛布や衛生キットを調達し、被災村に配布する
2. 今後気候が涼しくなりまた乾燥度も増すことから、呼吸器感染症の蔓延を防止するため、抗生剤などの備蓄に協力する
3. 地元自治体が支援する仮設家屋の建設に伴い、トイレなどの付帯施設の建設及びその活用協力する

引き続き皆様からのご支援をお願いします。

2011 年度 AMDA 紛争復興支援事業 スリランカ紛争復興支援スポーツ&アート交流プログラム



各男子サッカーチームメンバーら

■スリランカ 紛争の歴史と実施の経緯

スリランカは日本の四国程度の小さな島国です。しかし、異なる宗教を信仰する異なる民族「シンハラ人」「タミル人」「イスラムタミル人」の間で、26 年ものあいだ内戦状態が続きました。2002 年から 2007 年の間は停戦合意がなされ平和が訪れたように見えました。AMDA はこの間 (03 ~ 06 年)、スリランカ医療と平事業を 3 地域で実施しました。が、その後停戦合意は破られ再び内戦状態となり 2009 年に終結しました。特に最後まで戦闘区域となったタミル人居住地域である北部では内戦の爪痕が大きく残り、未だインフラや教育を受けられる環境が整っているとは言い難い状態です。お互いの文化を知ることから相互扶助が始まります。その第一歩を踏み出すことは当事者だけでは難しいものです。平和構築に積極的に関わった日本の AMDA から再び 3 グループの交流を呼びかけることにしました。同国では、医療と平事業の他、洪水緊急救援や (2004 年) 無料白内障手術 (2011 年) などを実施しています。

■スリランカ スポーツ&アート プロジェクト実施概要

2011 年 9 月 24、25 日にスリランカ北部の都市アヌラダプラにて、タミル人、シンハラ人、イスラムタミル人の 3 つの異なる民族、宗教の 10 歳から 14 歳の 4 校の学生がスポーツや芸術を通して交流を行い、総勢 159 人の学生が参加する大規模かつスリランカでは初めての試みとなりました。このプログラムによってスリランカでのスポーツと芸術による和平プログラムの第一歩が刻まれました。この大会は AMDA 本部と AMDA スリランカ支が中心となり、スリランカの国語及び社会総合省 (Ministry of National Languages and Social Integration) などの協力を得て、開催が実現しました。9 月 24 日には男子学生はサッカー、女子学生はネットボール (注) を行い、スポー

ツを通じて交流を深めました。また翌日 25 日にはアート大会を開催しました。学生らは、日本の支援者からの色鉛筆やクレヨンなどを使って、平和なスリランカを願って、それぞれの思いを表現したポスターを作成した。また同日には文化交流プログラムも行い、演劇、ダンスなどを通して交流を図りました。

今回招へいの対象となった学生は、内戦中に生まれ、その中で成長しているため、これまで他の民族、宗教、文化に触れる機会がありませんでした。実際に、今回参加した学生の大半にとって、自分たちとは異なる民族、宗教の子どもたちと触れ合うのは、これが初めてでした。初めは緊張し、笑顔が少なかった学生らも、スポーツや文化交流を通じて、次第に笑顔が和ぎ、初めて触れ合う異民族、異宗教の学生らの多様性を理解し、友情関係を構築することができました。



ネットボールする女子生徒たち

■参加者の言葉より抜粋

＊お互いを理解し受け入れることは、特に紛争後の状況では、平和な国を実現するカギとなる。(AMDA が行ったこのスリランカでのプログラムは子どもたちだけでなく、大人にとっても異文化、異民族間に友情と協調を構築するのに非常に重要なプログラムとなりました。(AMDA スリランカ支部長・サマラゲ医師)

＊色々なことがあったけど、このような機会を作ってくれてありがとう。今まで生徒は他の民族と接することはなかった



生徒による民族舞踊

けど、生徒たちにとって良い経験になったと思う。僕ら教師にとっても本当に良い経験だった。(イスラムタミル人の学生を引率した教師)

＊三民族の生徒それぞれがバスで去る際に、太鼓を叩きそれぞれの民族舞踊を踊りだしました。三民族の生徒が輪になって踊っている姿を見て、言葉は違ってもそれぞれが何かをこの数日間で感じたのだと思いました。『平和への一歩はお互いを知り合うことから始まる』ことを実感しました。(AMDA インターン 石崎千里)

■今後の展開(2012 年初頭から実施予定)

このプログラムを通じてできた絆を、今後も継続していくために、AMDA では「Sustainable communication computer Network among Sri Lanka and Japan : 日本・スリランカ中学生 e コミュニケーションと平和構築プログラム」を計画しています。一過性の交流に終わるのではなく、継続可能なものにすべく、それぞれの学校にインターネットを配備し、Skype などのツールと使い、学校間、学生間の交流を行う予定です。さらには、インターネット上でアート大会などを企画し、言葉を超えての交流を行い、日本の学生、学校にも参加してもらうことで、相互扶助のネットワーク、強い絆を作っていきたいと願っています。本年度実施した、スポーツ・アートプロジェクトについては来年以降、3 年をめどに継続して開催し、順次対象校、対象者を増やし、相互扶助の精神に基づく絆を広げる構想です。

(注) ネットボールとは：バスケットボールによく似た女子のみのスポーツ

2011 年も多くの皆様からご支援をいただきましたことに心より感謝いたします。

「自分には行けない代わりに AMDA が迅速に直接被災者の緊急救援に行ってくれてありがとう」というお礼のメッセージをご寄付の際に郵便振替用紙通信欄に書いてくださる方がいらっしゃいます。そういう思いで AMDA を支援くださる方々が大量にくださることに改めて思いを馳せつつ、そのお気持ちを大切に、これからも AMDA は被災地に、直接に迅速にお届けしてまいります。AMDA の活動はすべて民間の皆様からのご支援により実施しております。来年もご協力のほどよろしくお願い申し上げます。被災地の皆様のご健康を心より祈りつつ、来る年が穏やかな年であることを念じます。

郵便振替：口座番号 01250-2-40709 口座名 特定非営利活動法人アムダ
銀行振込：中国銀行 (銀行コード 168) 奉還町支店 (店番 102) 普通 2070291
口座名 特定非営利活動法人アムダ